

てじてじ さやか

てじてじ

2012年9月15日(土) ふりかえり

てじまりえ

<西荻窪⇄太田、別ルートで830円もお得!!>

広告のような書き出しですみません。今回、私は「ちょっと遠回りでも安く行ってみよう作戦」を決行してみました。これまで、電車で行く場合は、西荻窪⇄新宿⇄久喜⇄太田というルートで往復3,160円かかっていましたが、今回は、西荻窪⇄新宿⇄日暮里⇄北千住⇄久喜⇄太田というルートで往復2,330円で行くことができました。これは、JR東日本の都区内フリーきっぷや、東武鉄道の株主優待乗車証(金券ショップで700~900円ほどで買えます)を利用しての料金です。いつもより830円も安く行けて、ごはん代2回分くらい浮いたぜとほくそ笑みながら一人太田に着きました。特に夏休みは貧乏なんです、私。10時33分西荻窪発、13時18分太田着。若干時間はかかりますが、すべての電車で座れたので、読書&睡眠が大変捗りました。

<日本語教室なのか、日本語クラスなのか、日本語支援なのか、日本語交流なのか>

どう呼んだらいいのかわかりません。私は、この2回は「クラス」が3で、「交流」が7くらいの感覚で携わっています。今回の参加者は、Marly、Silvia、Lieの3名です。Vamos Papearの開始時間の14時に、私は3階にいました。Milenaが来たときにMarlyさんが一緒にいなかったのを尋ねると、Marlyさんは2階に直行したとのこと。このようなことを始め、ちょっとしたことにMarlyさんの本気度というか真面目に取り組もうという姿勢を感じます。それは、もしかしたら深読みしすぎなのかもしれませんが、私の観察ポイントでもあります。Silviaさんは、突如2階に現れました。この日、Hiromiさんが遅れるので、Silviaさんはポルトガル語教室を担当するはずでしたが、日本語のほうに来たので、ポルトガル語教室は大丈夫なのか尋ねると、「Yaemi、Erica、Sayaka!」とのお答え。Sayaka!! Silviaさんのノリなのか何なのか、よくわかりませんが、とにかく私たちのさやかちゃんが、大活躍です。私は、ここでSayakaの名前が聞けたことが非常にウレシイ。そして、14時に国際交流センターに着いたときは、とても眠そうでテンションが低かったSilviaさんが単語帳持参でやる気モードなのも嬉しく思いました。

前回に引き続き、『にほんごこれだけ!』と『旅の指さし会話帳 ブラジル』を使用しました。活動内容は、『にほんごこれだけ!』の「2. わたしのプロフィール」を中心に、仕事のこと、ブラジルのホームタウンのこと、家族のことなどをトピックにおしゃべりをしました。Silviaさんは、ひらがなや漢字で書きながら、Marlyさんは、アルファベットでメモをとりながら新しい単語や表現を覚えようとしていました。表記については、それぞれの好きな方法でいい思いましたが、手作り名刺を交換する作業では、二人に仮名や漢字で住所などを書くことにチャレンジしてもらいました。学習スタイルの異なるSilviaさんとMarlyさんですが、二人とも漢字を書くときは、「いち、に、さん、...」と書き順にとて

も気をつかいながら書いていたことに少し驚きました。これは、もしかしたら日本の学校に通う娘さんたちの漢字学習に影響されているのではないかなあと思いました。Silvia さんにいたっては、新しく覚えたい漢字をノートや単語帳に書くとき、書き順がわかるように一画ずつ書いていました。

Silvia さんは、いつも話が展開するきっかけを作ります。例えば、職業の話をしているときに、「校長」ということばを知りたがりました。ちょっとした変化球を投げてきます。そして「私の校長はトレド（名前）です」という文を作りました。それをきっかけに、Marly さんにも上司の名前や役職の名称を言ってもらったりして、話が広がりました。また、プリントにある「のうぎょう」の絵を指し、意味を確認したあとで「わたしのお父さん、のうぎょう」と言って、ブラジルのお父様の話をしてくれました。そしてまた、それをきっかけに、それぞれのブラジルのご家族の話に花が咲く、といった具合です。ちなみに、Silvia さんは8人兄弟、Marly さんは7人兄弟だそうです。

Marly さんは、プリントにあることを確実にやっていきたい様子でした。プリントにある色々な職業で私を取り上げなかったものも、ちょっとした時間に（例えば、Silvia さんが綴りを確認できるように私がホワイトボードに書いているときなど）一つ一つ自分で確認していました。Marly さんは、語彙数はある程度あるのではないかと思います。けれども、その語彙が正しいのか、使い方が間違っていないかななどを、確認したいという印象を受けました。

Silvia さんと Marly さんのコンビは、おもしろいなあと思います。言いたいことをちゃんと伝えたい Silvia さんは、圧倒的な表現力がありますが、語彙や文法がついていきません。Marly さんにポルトガル語で尋ねて、語彙を補うといった場面がしばしば見られました。一方、Marly さんは、言いたいことを自分の中にある限られた語彙でどう表現していいかわからずにいると、Silvia さんが別のアプローチで私に伝えようとしてきます。まだ二回目の日本語ですが、二人のコンビネーションが見えてきて興味深いです。次回、他の参加者がいれば、また違った化学反応が起こるのだと思います。それも楽しみです。

<子どもと触れ合う時間が…>

みっちり日本語のほうにいたので、3階のポルトガル語教室に戻ったときは、既に読み聞かせの後半でした。そして、解散。日本語もとても楽しいですが、子どもと触れ合う時間が少ないのも寂しいなあと思ったり。特筆すべきは、Milena と Ayumi と私の身長が154cmで並んだ、ということでしょうか。Ken ちゃんの足のサイズももう24cmだそうです。「チーム ま 22.5」（Ken ちゃん、はまち、てじまのスピコンチームの名前）だったところが懐かしいです。身体が大きくなるのを目の当たりにするってすごいなあと思います。心や頭の成長の方は目に見えませんが、Vamos Papear のみんなで育てている部分もあると思います。私もその中に入れてもらっていること、受け入れられていることに、感謝しています。ありがたいなあと心から思います。

さやか

2012年9月15日土曜日 振り返り 赤荻さやか

今回は手島さんと二人での参戦となりました！何の心構えもなく、仲の良い友達の家に行く感覚で太田へ行きました。そんな感覚になってから、もう一年以上になります。活動の長さを感じ、感慨深いです！

さて、教室での活動ですが、色々と予想外な展開が起きて驚きました（笑）まず、一つ目に驚いたことが、私が一つクラスを任されたことです。結果的に私は Milena, Ayumi, Larissa, Mayumi, Julia, Suzana, Carolina の計7人を見ました。見たというのは、本当に一緒に色塗りをするぐらいです。正直、ポルトガル語を勉強しに来ているのに、ポルトガル語を話せない私がこのクラスを見ていていいのかとも疑問を感じました。しかし、それぞれの活動の前に Yaemi さんがしていた説明の時に「Sayaka～」とさやかと一緒にやりたい人的なポルトガル語を話していたような気がします。その時に、Ayumi, Mayumi, Larissa がすぐに寄ってきてくれて、一緒にやる！と言ってくれたことが嬉しかったです。まあ、まったく意味がわからなかった私は、とりあえずやろうと言ったような気がします（笑）その後、個々の活動が始まってそれぞれにぬりえを始めました。当日は、ブラジルの独立記念日が9月7日なので、それにちなんだ絵を皆で塗りました。その時のクラスの様子は、私が一人でブラジルにいる感じでした。7人の中には、日本語が強い子がいます。その子たちはその子たちで日本的なものを感じました。やはり、私が最初から知っている古株の子たちは、ポルトガル語が強く、文化的なものもブラジルに慣れたんだように見受けられました。口ずさむ歌がブラジルの歌で、それに Julia と Suzana を除く、皆が同じように歌ったりしていました。ずっと前から Vamos Papear の中はブラジルで、そのため私は異文化の中に放り出された感覚は未だに時折感じます。当初はその違いにいちいち戸惑っていましたが、最近は何んでも来いという心意気です。

もう一つ驚いたことは Silvia さんにクラスを任せて(?) もらったことです。手島さんも書いていましたが、とても嬉しかったです。手島さんも晴菜さんも以前、クラスをまかされたことがあります。私たちがクラスにいるということに違和感がなくなったというよりか、よち深い信頼関係が築けたのかと勝手に思っています。帰り道に手島さんとお話をしていたのですが、ぱずるの活動は太田とぱずるの間のしつかりとした信頼関係があつてこそ続けられていると再認識しました。

長くなりましたが、以上で振り返りを終わります。